

森下さちこニュース

2007年2月号
和歌山市鳴神1145-6
TEL:474-6556

議員団ホームページ <http://jcpwkym.sakura.ne.jp/> Tel 435-1113

地域からくらしまもる 日本共産党◇森下さちこ

がんばっています

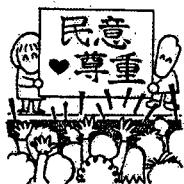
2月定例市議会が 始まります

2月23日から2007年度の
予算を決める定例市議会が始まり
ます。2006年度の最終補正も
含まれます。

2007年度予算議会は、各会
派からの代表質問が行われ、その
模様がテレビやラジオを通じて放
映・放送されることになっていま

す。日本共産党市会議員団から
は今回は私、森下さちこが代表
質問に立ちます。

お時間の許す方はぜひ傍聴に
お越しください。傍聴にこれら
ない方でも、テレビやラジオで
議会の様子をご覧いただければ
と思います。



今年は暖冬だと言われています。
12月の例年のない雨量の多さがみかんの
味を損ねそうですが、1月からは晴天と
気温の高さで野菜ができ過ぎこれもまた悩
ましいことだと聞くにつけ、自然の条件に左
右されざるを得ない農業の難しさを痛感し
ます。農家の固定資産税を下げるために
有効な「生産緑地制度」が粘り強く求めて
きた結果、実施されることになり申請する
農家が増えています。食の安全・安心とい
う観点からも農業政策の充実にとさらにな
らなければと思う今年の冬でもありまし
た。

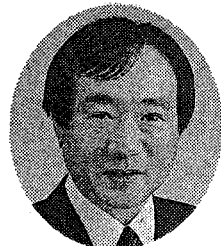
県政・市政アンケート ご協力ありがとうございます

日本共産党県議団、市議団が昨年
秋から年末にかけて行ったアンケ
ートには1100通を越えるご回答を
いただき、本当にありがとうございます
ました。

特に目立った回答は、「暮らして
困っていることは何か」の問いに対
するもので、上位4位は①介護保険

料が高い②年金が少ない③医療費の
負担が重い④国保料が高いという結
果になっています。

また、自由記述の欄にびっしりと
書いてくださる方が多いことに、改
めて市政・県政への関心の高さや暮
らし、社会保障への期待の高さがう
かがい知れました。なおいつそう、
みなさんの代表として暮らしを支え
命を守るといふ市政目指して声を挙
げていきます。



こんにちは！ ふじい けんたろう 藤井健太郎です

県知事選挙後はじめての臨時議会が開かれ、仁坂知
事の所信表明に対する質疑を行いました。

木村前県政での官製談合事件の真相解明と再発防止
策をどうすすめるのか、県外からの企業誘致だけでなく
県内産業の振興に力を入れること、県が医療や福祉施策
への独自助成を強めることを求めました。

知事は談合ができないシステム作りに取り組むと明言
はしましたが、官製談合の全容解明については言葉をに
ごしました。

官製談合は建設業者に選挙応援や献金を依存しその
見返りとして県の仕事を発注するところから始まります。
公正であるべき行政をゆがめ、税金のムダ使いや腐敗を
生み出し、県民に多大な損失をもたらします。ところが、
知事は県と取引関係にある業者からの献金を受け取る姿
勢を示しました。知事への監視を強め、公平・公正な県政
の実現のためにも4月の県議選でがんばる決意です。

議員定数問題検討協議会 報告をまとめ終了

2月5日、議会が設置していた議員定数問題検討協議会が開かれ、この間協議された内容報告の確認を経て終了しました。

報告文は「当協議会は06年6月30日に設置されて以来、計6回にわたり議員定数問題を検討すべく開催され、さまざまな角度から調査し、協議・検討を重ねてまいりましたが、去る1月29日の協議会を持って閉会することに決しましたので報告いたします。なお、意見の集約を見るにはいたりませんでした。」となっています。

議員定数問題は2月定例議会で報告されます。日本共産党市議団は議員定数をめぐる問題について独自の見解を発表する予定です。



日本共産党は「住民が主人公」の立場で悪政に立ちむかい、切実な要求を実現するために全力をつくします。



市教育委員会が交付金を不正使用

市教育委員会の青少年課と文化振興課が他団体への交付金の未使用分を不正に使用していたことが明らかになりました。

青少年課の説明によると、公金の不適切な処理は90年～05年度までの期間で、母親子どもクラブへの未交付金221万2407円ということです。このお金の用途は協議会の運営費用、協議会の事務機器購入費用、協議会事務局用消耗品などで不明なものもあるといいます。

調査の結果、私的流用はなく使ったお金については全額関係者で市に返還したというものです。文化振興課についても金額や期間の違いはありますが同様の説明がありました。

この件を巡り、教育・民生常任委員会が開かれましたが、教育委員会や助役は詳細の解明に触れることなく、「再発防止に取り組む」と述べるにとどまりました。



おっきく なあれ

森下さんちの
元哉くん
成長日記

柳沢厚生労働大臣の「女性は産む機械」発言が多くの人の怒りを呼びました。当然だと思います。女性の一人として私も憤りを覚えました。地域を回っていると男性も同様に怒り心頭という感じ。子どもを産み、育てるということは人生の一大事業であり、女性と男性が共に支え合うことが不可欠です。特にこの日本は教育費をはじめ経済的負担は並大抵ではありません。私自身も二人姉妹でもう一人弟か妹が欲しかったので自分は三人産みたいと思っていました。か叶いませんでした。一人では決してできないからこそ、産むことも育てることも社会的な支えが必要なのです。それにもかかわらず、女性のみに負担や責任を押し付けるような厚労相の発言は公人として許されるものではありません。なぜ少子化がここまで進んできたのかを物語るような寒々とした発言でした。